

紀宝町データヘルス計画 中間評価

平成 30 年にデータヘルス計画を策定し（令和 2 年 3 月一部改訂）、保有データを活用しながら、国保被保険者の健康保持増進のためにも早期に生活習慣病を発見し、重症化を防ぐことを目的として保健事業を進めています。

その為に、令和 2 年度は 6 か年計画の 3 年目となり中間評価を行います。

実績及び評価

1. 特定健康診査受診率の向上に向けて

【目的】 生活習慣病予防の発症や重症化予防、医療費の適正化を図るため、健康診査の受診率向上を目指します。

【目標】 特定健診受診率 目標値 60%【令和 5 年度】

【実績】 平成 29 年度 28.2% ・ 平成 30 年度 30.2%
令和 1 年度 39.5%

【成功要因】 ・ 特定健診未受診者対策として、委託会社による受診勧奨ハガキの発送を平成 30 年度から開始した。ナッジ理論を使用した勧奨ハガキなので、住民の周知にも効果があり受診率の向上が出来た。
・ 長期目標を達成するために、中間目標値 39%として達成できるように庁舎内で協力できたのも成功の要因と考えられる。

【評価】 a （改善している）
・ 今後、地区の郡市医師会や特定健診委託をしている地域の医療機関からの健診勧奨の協力を得る。

【今後の方向性】 ナッジ理論を使用した勧奨ハガキによる勧奨のほか、電話による受診勧奨を実施し、さらに効果的な受診率向上に向けた勧奨方法を検討する。

2. メタボリックシンドローム減少に向けて

【目的】 最終年度の計画受診者数に、国が示した内臓脂肪症候群出現率 24.92 の 1 割を減じた出現率 22.4% を乗じた 398 人お最終年度の目標人数とし、これを基に各年度の内臓脂肪症候群該当者数を逆算しています。

【目標】 受診率の向上に伴いメタボリックシンドローム（以下メタボと記載）該当者が増加すると考えられる。そのため、メタボ予防に関する啓発活動を行う。また、健診によりメタボ予防者には保健指導を行うことにより、該当者を減少させる。

メタボ該当者（長期目標） 398 人【令和 5 年度】

【実績】 平成 29 年度 1 0 4 人 平成 30 年度 1 2 8 人
令和元年度 1 7 2 人

【未達要因】 メタボリックシンドローム減少に向けての対策が不明瞭であった。また、特定健診後から特保健指導開始まで、時間がかかり対象者は危機意識が薄れると感じられる。そのため、定保健指導の実施率が低くなるのではないかと。

【評価】 C（悪化している）
特定健康診査結果のメタボ該当者の率の上昇が認められる。

【今後の方向性】 目標達成の実績をメタボ該当者で評価しようとしたが、毎年評価対象者の変化もあり、評価を行うことが難しい。よって、令和 3 年度からは特定保健指導率での評価に変更することとした。

【目標値】

令和 3 年度 1 0 % 令和 4 年度 1 2 %
令和 5 年度 1 5 %

3. 生活習慣病対策・重症化予防 『糖尿病の発症予防と重症化予防』

【目的】 医療費の人工透析による割合が高いことから、糖尿病の発症予防、重症化予防していくことが必要となります。

【目標】 糖尿病性腎症悪化による人工透析患者の減少のため、
受診勧奨、保健指導の実施

令和5年度目標値	医療機関受診勧奨	25件
	保健指導	5件

【実績】 令和元年度は令和2年度からの事業実施に向けて、プログラムの策定の準備を行った。

【評価】 a (改善している)

令和元年度三重県糖尿病性腎症重症化プログラムを参考に、熊野市・御浜町・紀宝町の関係者と連携し、紀南地域版糖尿病性プログラムを作成した。作成に関しては紀南医師会の協力を得て医師会の中で周知を実施した。

【事業の方向性】 令和元年度、糖尿病性腎症重症化予防プログラムを紀宝町、熊野市、御浜町で作成し取組を実施する。

今後は、糖尿病性腎症重症化予防プログラムに沿った、医療機関受診勧奨と保健指導及び糖尿病負荷検査の事後指導など行っていく。

	医療機関受診勧奨	保健指導
令和3年度	15件	2件
令和4年度	20件	3件
令和5年度	25件	5件

4. 運動習慣の獲得に向けた取り組み

- 【目的】 紀宝町では運動習慣をもっている人が少ない現状であり、また、高齢者の介護に伴う有病状況としては、筋・骨格系の治療費については、約半数の人が有していることから、生活習慣病予防、介護予防のためにも運動習慣の獲得に向けた取り組みを行うことが必要となります。
- 【目標】 令和5年度目標値
①1回30分以上の運動習慣なし 60%以下
②1日1時間以上の運動習慣なし 50%以下
- 【実績】
- | | | | | |
|--------|---|-------|---|-------|
| 平成29年度 | ① | 66.5% | ② | 61.3% |
| 平成30年度 | ① | 65.3% | ② | 55.6% |
| 令和元年度 | ① | 64.6% | ② | 59.9% |
- 【未達要因】 当地域は交通の便があまりよくない地域であり、移動の手段として自家用車を利用する人が多い。運動の機会として意識して歩くなどの運動の機会を作ることが必要である。
- 【評価】 C (悪化している)
- 【事業の方向性】 インセンティブを導入したウォーキングを推進し、運動習慣の定着化を目指す。
運動の習慣化が少ない地域であることについて、周知するとともに、運動の重要性に対する啓発活動、住民の方が参加をしたいと思う教室の運営、運動の習慣化を目指す。

5. 精神保健・自殺対策

- 【目的】 医療費分析より、国・県と比較すると精神の医療費が占める割合が1位と高い状況であり、人口10万人に換算した東紀州は自殺率の高い地域でもあることから、精神保健における自殺対策を含めたこころの健康づくりに取り組みを行うことが、必要となります。
- 【目標】 当地域の人口において、自殺者が年間2名発生すると、全国平均自殺率(人口10万人対)を超える。また、自殺者の推移を見るとあらゆる年齢層での自殺者が認められており、すべてに年代での自殺対策が必要となる。
目標 年間2名以下(自殺者0人を目指す)
- 【実績】
- | 自殺者数 | |
|-------|----|
| 平成29年 | 2人 |
| 平成30年 | 1人 |
| 令和元年 | 5人 |
- 【成功要因】 一般住民向に広報等を試用し自殺対策の必要性の周知をした。また、ゲートキーパー研修会の実施をした。
- 【未達要因】 当町における自殺者の推移を見るとあらゆる年齢層での自殺者が認められている。また、単年では、目標値が達成されている時があるが、時折自殺者の人数が多い時があり、5年累計で評価すると自殺率が全国平均より高くなる。
- 【評価】 自殺予防対策として、全体的な広報活動。ハイリスクアプローチが必要
- 【今後の方向性】 関係機関と連携し、自殺対策を含めたこころの健康づくりを継続していく。

まとめ

紀宝町の健康課題とその対策として、

【生活習慣病対策】と【特定健康診査未受診者・特定保健指導未利用者対策】があります。基本的なデータ把握をし、健康・医療情報による分析結果に基づいて紀宝町の健康課題とその対策の効果があるかを中間評価で検証し、評価することで令和3年度以降も第2期データヘルス計画を遵守し保健事業を進めてまいります。

達成につながる取組・要素

地域の健康寿命の延伸に関する意識の醸成。

未達成につながる背景・要因

病院に定期的に通院中であることなどを理由に、特定健診受診を拒否すること。

今後の方向性

町民一人一人の健康に関する意識を高め、紀宝町全体として健康寿命の延伸に繋げてまいります。